

# 六角橋商店街の成り立ちとその後の変遷

津田研究室 増田和也

**研究概要：**六角橋商店街は、白楽駅前を通る旧綱島街道の駅前より六角橋交差点まで 500m の地域に存在している。また、商店街には、旧綱島街道に並行して仲見世通りという奇妙な細い路地も含まれている。この仲見世は戦後、闇市のバラックが発展し、現在の形になったと言われている。

**研究目的：**本研究では、公図、地形図、地図、聞き取り調査を用いて、六角橋商店街を中心とした地域の道路の変遷、六角橋商店街、仲見世の成り立ち、その変遷を明らかにすることを目的とする。

## 研究成果

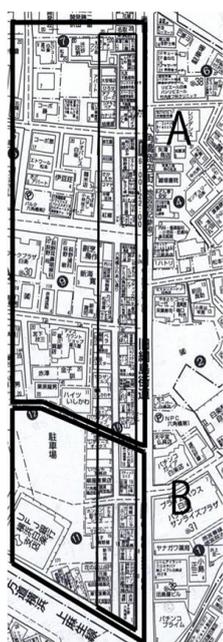


図 1. 現在六角橋商店街

戦時中の六角橋商店街は、空襲による類焼防止のため、火よけ地が設けられることになり、建物は強制的に壊された。火よけ地に指定されたという範囲は図 1 細枠部分。火よけ地(空き地)は軍関係のトラックが止めるなどされ、畑と防空壕もつくられた。敗戦直後は、空襲で焼け出された横浜の商人たちが溢れかえっていた。昭和 23 年(1948 年)頃、その状況をみた田島(当時周りから親分と呼ばれていた)が中心となり、山梨から材木を運んで、空き地に小さい商店をたくさんつくることになった。いわゆる闇市だ。このバラック建ての店を構えた闇市の誕生こそが、六角橋商店街の起源であるとともに、仲見世通りという奇妙な細い路地を生み出した。戦後の混乱期で土地も不法占拠に近いものだっただろう。時のバラックは、間口が 2 間で、仲見世通りの道を挟んで旧綱島街道側は、旧綱島街道沿いの店と背中合わせになるため、奥行きが一間半、その反対側は二間の建物だった

火よけ地に指定され、仲見世が成立した土地の戦前の公図と現在の公図を比較、検討をする。図 3 の太線部分は、戦前の土地から分筆されているところを示している。

またアとウの部分は縦の細長い土地が新たに追加されている。図 1 のゼンリン地図と見比べても仲見世通りの道であると推測できる。またイの部分は商店が密集している現在でも地割が全く変わっていない。仲見世ができたことで、戦前の一部は通路らしきものができたなど変化があったが、まったく変わらない箇所も多い。

## 苦労した点、感想など

資料集めのために、図書館や法務局に何回も行かなくてはならなくて、大変だった。

研究に協力してくれた、六角橋商店街の皆さま、およびご指導いただいた津田先生には心より感謝いたします。

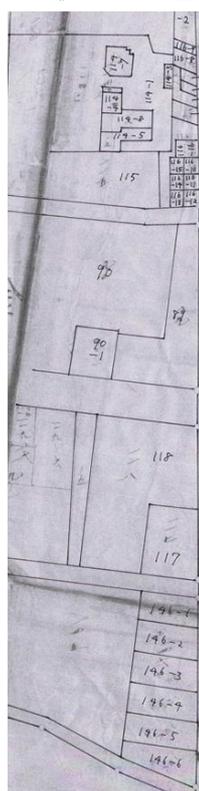


図 2. 戦前公図

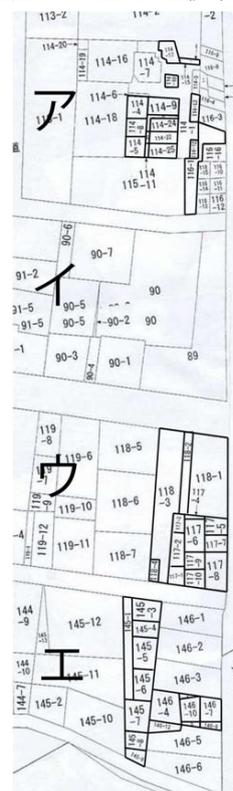


図 3. 現在公図